

何百回とできたことが本番のたった1回で失敗するわけない

残暑の候、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

リオオリンピックは、日本大健闘のうちに終了しました。

金メダル14は、アテネの16には及ばないまでもメダル総数41は過去最高でありました。私もテレビで見えて、多くの感動と自信を選手たちからもらいました。ありがとうございます。



代表取締役社長 吉田治伸

今回の日本大躍進をあらためて考えるとコーチの存在が大きなものだと考えさせられます。柔道の井上康生、水泳の平井伯昌、加藤健志、シンクロの井村雅代、バドミントンの朴(パク)柱奉、そして女子レスリングの栄和人…たくさんの名コーチのもと「先生の言うことを聞けばメダルが取れる」と猛練習を乗り越えてきたのであります。表題は、シンクロの演技が終わって、銅メダルが確定した後の井村コーチの発言です。「失敗しないだろうか」とドキドキしながら見ていた私とは大きく違います。

世界中のアスリートの4年をかけた戦いはまた、サポートする人にとっても集大成なのであります。サポートする側は、メダルはもらえませんが、メダル獲得には、大変重要な役割を担っています。そして、それは、縁の下の力持ちと言われる分野も含めて、全員で一つの成果なのであります。

我々の仕事は、各施設でいろいろなパートを任されています。我々の仕事の「金メダル」とは何でしょう？私は、施設を利用して下さる皆さまと、一緒に働く同僚の「笑顔」と「感動」ではないかと思っています。

仕事というオリンピックで今年も過去最高の「笑顔」や「感動」の金メダルを獲得したいものです。そんな事を思いながらオリンピックを見ていました。

9月になってもまだまだ暑いようです。ご自愛下さい。